

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1/2

団体名	テオプロジェクト-Theodorus Project-		
事業名	小樽の歴史文化普及事業「春を告げるダイヤ」		
実施期間	令和6年10月14日から10月24日、令和7年2月頃		
事業の目的及び期待する効果	<p>目的:埋もれた歴史を、アートの子カラで掘り起こす。 かつて、小樽に繁栄をもたらした「ニシン」を再認識し、小樽市民のシビックプライドを醸成することを目的とします。 また、最近になって群衆が見られるようになり、市場にもニシンが流通するようになりました。しかし、骨が多くて調理しにくいなどの要素もあり、市場でニシンを買って自宅で食べるという文化は根付いていません。 そこで、改めてニシンの魅力を演出し、歴史的価値と現在とのつながりに光をあてることで、小樽のニシンの価値を再発掘し、以下の目標を達成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小樽市民がニシンへの理解を深め、地域への誇りを育む ● ニシンの消費拡大による地域経済の活性化 ● 小樽のニシン文化の継承と発展 		
実施額	事業費	332,689円	助成額 277,689円
事業内容	<p>■展示の部 小樽市内で多くの方の目に触れる場所で展示したいという趣旨から、ウイングベイ小樽の2階レンタルブースをお借りし、以下3つの内容について展示を行いました。期間は2024/10/14-10/24です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小樽近郊のニシン漁と関係のある歴史上の人物5名を選定し、それぞれ資料を紐解き、博物館の学芸員などに確認をしていただきながら原稿を作成。偉人パネル5枚を製作、展示しました。(紹介したのは次の5名、平野義見、南部てつ、本間栄太郎、猪俣安之丞、白鳥永作) ● 世界史から見るニシンの価値や、ニシンの概要について解説するパネルを4枚製作し、展示しました。 ● 現代のアーティスト5名にニシンをテーマにした作品制作を依頼し、展示を実施しました。 <p>◆添付資料 ・イベント周知チラシ ・春を告げるダイヤ展の来場者アンケート報告書</p> <p>■配信の部 小樽でニシン漁が解禁となったのが1月下旬に、市場の様子を撮影し、新鮮な鱈が食べられるまち小樽をPRしました。</p>		

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

◎事業の日程について

2/2

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
----	----	-------------------	--------------

2024年 10月14日～24日	「春を告げるダイヤ展」の実施	参加作家5名 来場者数は1日150人と想定	参加作家5名 来場:約1,500人 *平均して1日150人の 通行人で計算
2025年 3月13日～	ニシンのショートムービーを配信	約10,000人 *リーチ数で換算	約1,400人 (再生数約2700)

◎事業評価について

<p>1. 事業の目的の達成度</p> <p>本事業は、「埋もれた歴史を、アートの力で掘り起こす」を目的として実施しました。ここでのアートは、「視覚的に訴求し、本質を掘り下げ、問題提起につなげる」という定義のもと、企画・運営を進めました。</p> <p>展示内容では、「かつて小樽はニシン漁で栄えた」という一般的な説明にとどまらず、実際にニシン漁に関わった具体的な人物に焦点を当てました。</p> <p>ニシンの量を予想する行政機関の担当者、蘭島のニシン漁師、ニシン漁で儲けたお金を地域貢献に費やす豪商、それを相手にした遊女など、5名の人物を再調査し、紹介することで、当時のニシンが地域経済や市民生活にもたらした具体的な影響を明らかにしました。</p> <p>また、展示は若い世代の往来が多いと推測される、JR築港駅にも近い、ウイングベイ小樽の2階で実施しました。これらの成果により、当初掲げた目的を達成できたと考えています。</p> <p>また、配信の部ではInstagramにて小樽のニシンをPRするショート動画を作成しました。</p> <p>今季は悪天候が続き、ニシンの漁獲が安定しないなどの理由で公開が遅くなりましたが、公開から2日間で約1,400人のユーザーに訴求する事が出来ました。</p>
<p>2. 事業の効果(参加人数の面から)</p> <p>展示会の達成率は100%、配信の部の達成率は14%です。</p> <p>ウイングベイ館内の往来数について、土日の歩行者が大変多く、もっと多くの人の目に触れた可能性も高いです。</p> <p>今回は歩行者が多い会場として2階を選定しましたが、会場は「作品展示」をするにはピクチャーレールなどの美術館などの展示で使われる備品が使用できなかったため、展示方法にはかなり工夫を施しました。</p> <p>解説パネルなどは別の会場でも展示できるものなので、別の会場にて展示する機会も検討したいと考えております。</p> <p>配信の部に関しては、予定していたスケジュールよりも遅れたことで、想定していた人数にはまだ届いていない結果となりました。</p> <p>小樽のニシン漁は1月下旬に解禁されますが、漁獲が増えるのが2月上旬から中旬となり、また、強風などが続いたことで安定せず、スケジュール調整が難しい結果となりました。</p> <p>ですが、動画公開から2日間で約1,400人にリーチし、今後は違うアカウントからも動画を配信することで、いずれ目標数に届く想定しております。</p>
<p>3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度</p> <p>展示会場においてアンケート調査を実施し、10件の回答を得ました。回答数は少なかったものの、「ニシン漁を人物を通じて紹介した点」に対して好意的な意見が寄せられました。また、アンケート以外にもSNS投稿から同様のポジティブな反応が確認できました。</p> <p>一方で、不満の声も一部ありました。例えば、小樽在住の10代男性と市外在住の70代男性からは、内容に対する否定的な意見が寄せられました。しかし、このような属性の方々が、普段博物館などに足を運ぶ機会が少ない中で、商業施設を訪れた際に「ニシンの歴史」を伝える場を設けられたことは、本企画の狙いに合致した成果であったと評価しています。</p>

また、「展示作品が少ない」「展示内容が物足りない」といった感想もありました。これについては、企画が「美術作品展覧会」と誤解されていた可能性が考えられます。歴史とアートを融合させた企画の意図が十分に伝わらなかったことを反省点として挙げ、今後の情報発信の改善に活かしていきたいと考えています。

4. 今後の事業について

これまでの3年間で得た実績とノウハウを基盤に、事業を継続的な活動へと発展させたいと考えています。

予算面の課題は依然として大きな懸念事項ですが、引き続き地域の歴史探求に取り組みます。従来の歴史紹介とは異なる新たな視点から地域資源に光を当てることで、多様な価値の発信を目指します。

また、アートの持つ視覚的な訴求力や、アーティスト特有の独創的な着眼点をなんとか活かしながら、可能な範囲で連携し、活動を継続していきます。

さらに、審査会でご提案いただいた「パネルを保管し、別の機会に再利用する」という方策についても前向きに検討しており、展示内容の再活用を通じて事業の広がりを図ります。

今後は、これらの取り組みを通じて、特に小樽市民にさらなる魅力を提供できるよう努めてまいります。